

ふるさと歴史館第十六回企画展

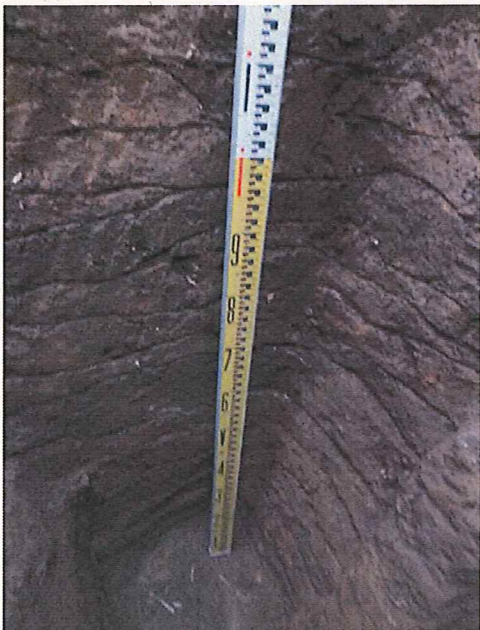
特別史跡 常陸国分寺跡

近年の発掘調査の成果

―保存活用計画のすゝめ―



西側回廊（左側の黒い土のところ）



東側回廊？の版築
（黒と黄色の土を交互に突き
固めて頑丈な地盤をつくっ
ています）



巴文軒丸瓦
（中世の瓦。鎌倉時代以降も常陸
国分寺が機能していた可能性が
あります）

平成30年10月31日（水）～平成31年2月3日（日）

午前10時～午後4時30分/月曜休館（祝日の場合は翌日） **入館無料**

◇ **展示解説 11月10日（土） 10時00分から**

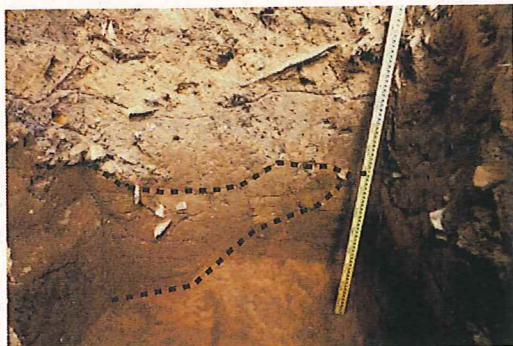
担当職員が展示の見どころを解説します（30分程度）。
申し込み不要。直接ふるさと歴史館にお集まりください。

石岡市立ふるさと歴史館

石岡市総社1-2-10 石岡小学校地内 Tel:0299-23-2398

常陸国分寺跡は天平13年(741)に聖武天皇の命により建立された古代寺院です。大正11年に国の史跡に指定され、さらに昭和27年に国史跡の中から指定される「特別史跡」となっています。国の史跡は全国で約1800件ありますが、特別史跡は平成30年段階で全国に62件しかありません。これらのうち、茨城県には3件の特別史跡があり、常陸国分寺跡以外では「常陸国分尼寺跡」「旧弘道館」が相当します。旧弘道館は水戸市ですが常陸国分尼寺跡は国分寺と同様に石岡市内に存在します。石岡市には貴重な史跡が多いことがお分かりいただけるかと思えます。

現在、石岡市ではこの常陸国分寺跡について、史跡の持つ本質的な価値を確実に保存して将来に伝えるための保存活用計画を策定中です。その一環として、平成28年度以降、重要遺構の存在を確認するための調査を行っております。小規模な調査で分かりづらいところもあるかもしれませんが、その成果をご紹介します。



常陸国分寺跡 金堂のコーナー部分の可能性ある遺構

平成28年度の調査では金堂の東側の端を確認する調査を行いました。その結果、東西幅が33mほどである可能性ができました。土層の破線部が金堂のコーナーと思われる掘り込み部分です。



常陸国分寺跡 伽藍を区画する溝

平成15年度の調査で伽藍を区画する溝が確認されました。区画溝内には大量の瓦が流れ込んでいたことから、溝の内側(写真の左側)には瓦葺きの築地塀が存在した可能性があります。このように発掘調査を通して当時の様子を知ることができます。



石岡市立ふるさと歴史館

開館時間 午前10時～午後4時30分
 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
 交通 JR常磐線石岡駅西口より徒歩約12分
 駐車場あり
 住所 石岡市総社1-2-10 石岡小学校敷地内
 電話 0299-23-2398

